



調査レポート

東北ルネサンス

東北に残されている生活行動や習慣を発掘し
そこから「人間本位」の生活のありようを洞察しました

ルネサンス【Renaissance】

14-16世紀のヨーロッパで起こった

「教会中心」から「人間中心の社会」への復興・再生の運動

「そういえば、うちでは家で食べるお米を買ったことって、ないんですよね。」

きっかけは、ある会議での、研究員のこんな発言でした。

この研究員は、実家が兼業農家で、母親がいつもお米を送ってくれていたのです。

すると、他の研究員からも

「おれも、実家が兼業農家だから田植えと稲刈りの時期には戻って手伝うし、米は全部自家製だよ。」

「私も、旬の時期には近所の人から野菜をもらえたりして、美味しく戴いています。」

…そんな声が次々と挙がりました。

特別なことでもないという風に、しかし、どこか嬉しそうに話す彼らを見て、

私たちは次のようなことを考えました。

「実は、東北の人たちの生活には、自分たちも気が付いていないだけで、すぐ足元にたくさんの幸せがあるのではないか？」

「これからの時代を人間が豊かに生きるためのヒントが、なにか東北の中にあるのではないか？」

これをきっかけに、

わたしたちロッキンは、東北に住む人たちの生活行動や習慣を、いま一度発掘してみようと考えました。

そして、定量調査と、インタビュー・アンケート・デスクリサーチ等の定性調査を実施。

そこからは、産業本位・技術本位ではない、まだ東北に残される「人間本位」の生活のありようが見えてきました。

本レポートでは、今も東北に残されている生活行動や習慣について考察していきます。

リサーチ結果のご紹介

調査概要

以下条件にて、定量調査を実施。

- 【調査地域】 ① 東北6県
② 東京23区
- 【調査対象】 ① 東北6県の出身かつ現居住者 20～69歳男女
② 東京23区の現居住者 20～69歳男女
- 【サンプル数】 ① 東北6県 3120s
② 東京23区 1030s
- 【調査手法】 Web調査
- 【調査時期】 2023年3月

インタビュー・アンケート・デスクリサーチ等の定性調査を実施。



調査隊

青森支社	玉田純平	BXP局	栗原渉
盛岡支社	佐藤允		白田涼太
	山澤美菜子		荒井和希
福島支社	大内成美		菅原愛恵
BXC局	加勇田亮二		
	武田陽介		

〈 リサーチ結果 1 〉

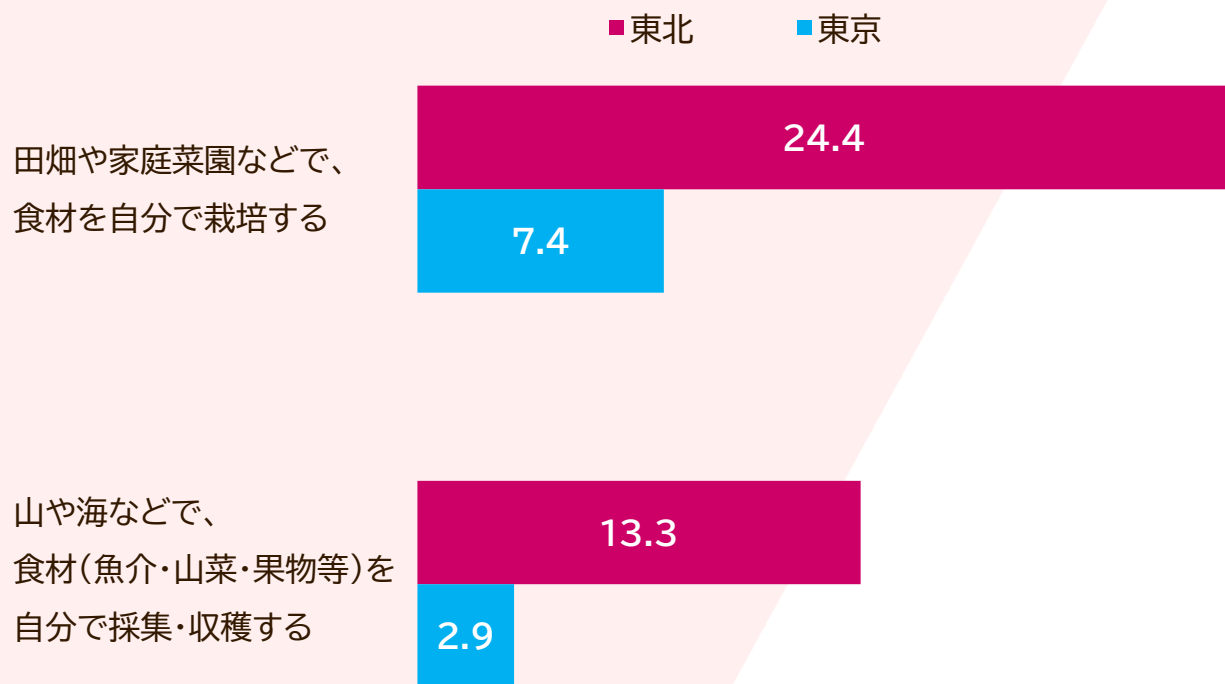
食料の生産や贈与について

no rice, no life.

米があれば、なんとかなるさ。

東北では、農業・漁業従事者でなくても、
自分で食材を作ったり採(獲)ったりしている人がまだまだ多いようです。

Q.あなたが普段「食べるもの」についてお聞きします。あなたは、次のようなことがどの程度ありますか。



n = 東北 : 2941 / 東京 : 1011 (農業・漁業従事者を除く)

普段は広告会社で営業してますが、
実は兼業農家です。

田植えと稲刈りの時期には
週末に実家へ戻って、
父親と一緒に農作業を行っています。
(40代男性 / 会社員 / 宮城県在住)

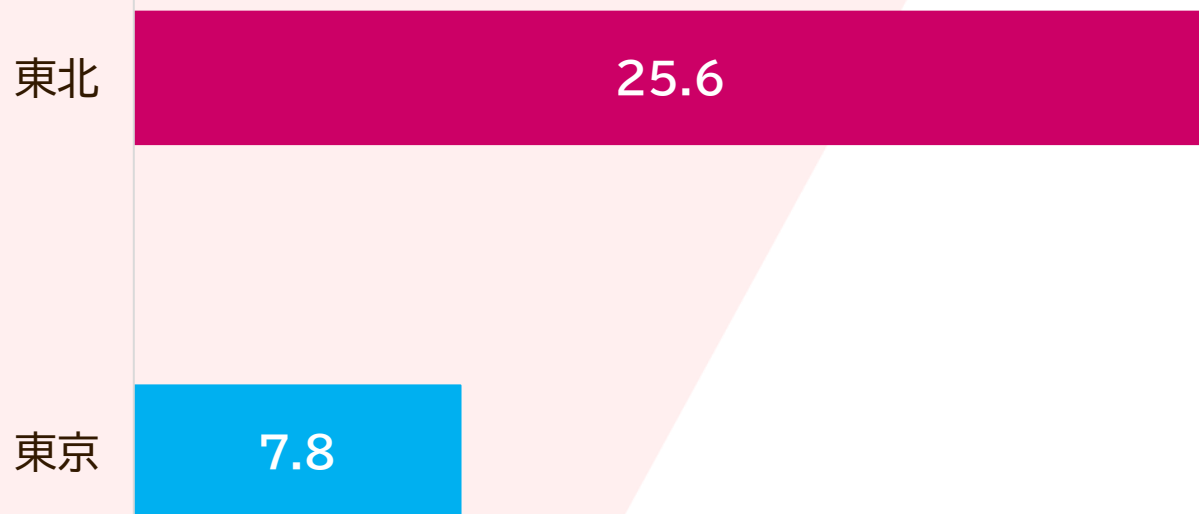
春は河原に生えてる
ふきのとうを採って天ぷらにして、
秋は道沿いに落ちてる
栗を拾って栗ごはんにするのが、
我が家の季節の楽しみです。
(20代男性 / 会社員 / 岩手県在住)

お米を買わずに済んでいるお宅も、まだまだ多いようです。

ロッキン調査隊のリサーチからも、農業を営む親戚や知人からお米をもらっている家庭が複数見られました。

Q.あなたの普段の「買い物」についてお聞きします。あなたは、次のようなことがどの程度ありますか。

「家で食べる米を買う」 まったくない+めったにない



n = 東北 : 373 / 東京 : 116 (専業主婦・主夫のみ)

毎年、農家をやっている妹が
玄米の状態ですべて送ってくれています。
もらった玄米は、スーパーなどの精米所で
精米をして、食べています。
(40代男性 / 会社員 / 宮城県在住)

職場の同僚が兼業農家をしているのですが、
先日そのお米を30kgほど戴きました。
(30代男性 / 会社員 / 宮城県在住)

こんな気持ち、東北の人たちの根底にはあるのではないのでしょうか？

no rice, no life

お米があればなんとかなるさ

「実家の母からの電話はいつも第一声が『米あるか？』なんですよ。ついでに一月前に送ってくれたばかりで、まだあるに決まってるときでもね。母にとってはそれは『元気でやってるか？』という意味なんですね。

米さえしっかり食べられていれば大丈夫、と母は思っているんです。」

（40代男性／会社員／宮城県在住）

でもこれは、あながち冗談ではなくなるかもしれません。

日本の食糧自給率推移（カロリーベース 単位:%）



データ:農林水産省

日本の食糧自給率は、
下がり続けて現在37%。

これでも十分に低いですが、
種と肥料の海外依存度を考慮したら、
実際には10%にも届かない、
とされています。

国際物流停止が起きた場合、世界の餓死者が日本に集中する、という推定も。

鈴木宣弘

東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

～書籍まえがきより抜粋～

「米国ラドガース大学の研究者らが、『局地的な核戦争が勃発した場合、食料生産の減少と物流停止による餓死者は食料自給率の低い日本に集中し、世界全体で2.55億人の餓死者のうち、約3割の7,200万人が日本の餓死者（人口の6割）』と推定する衝撃的な研究成果を発表した。」

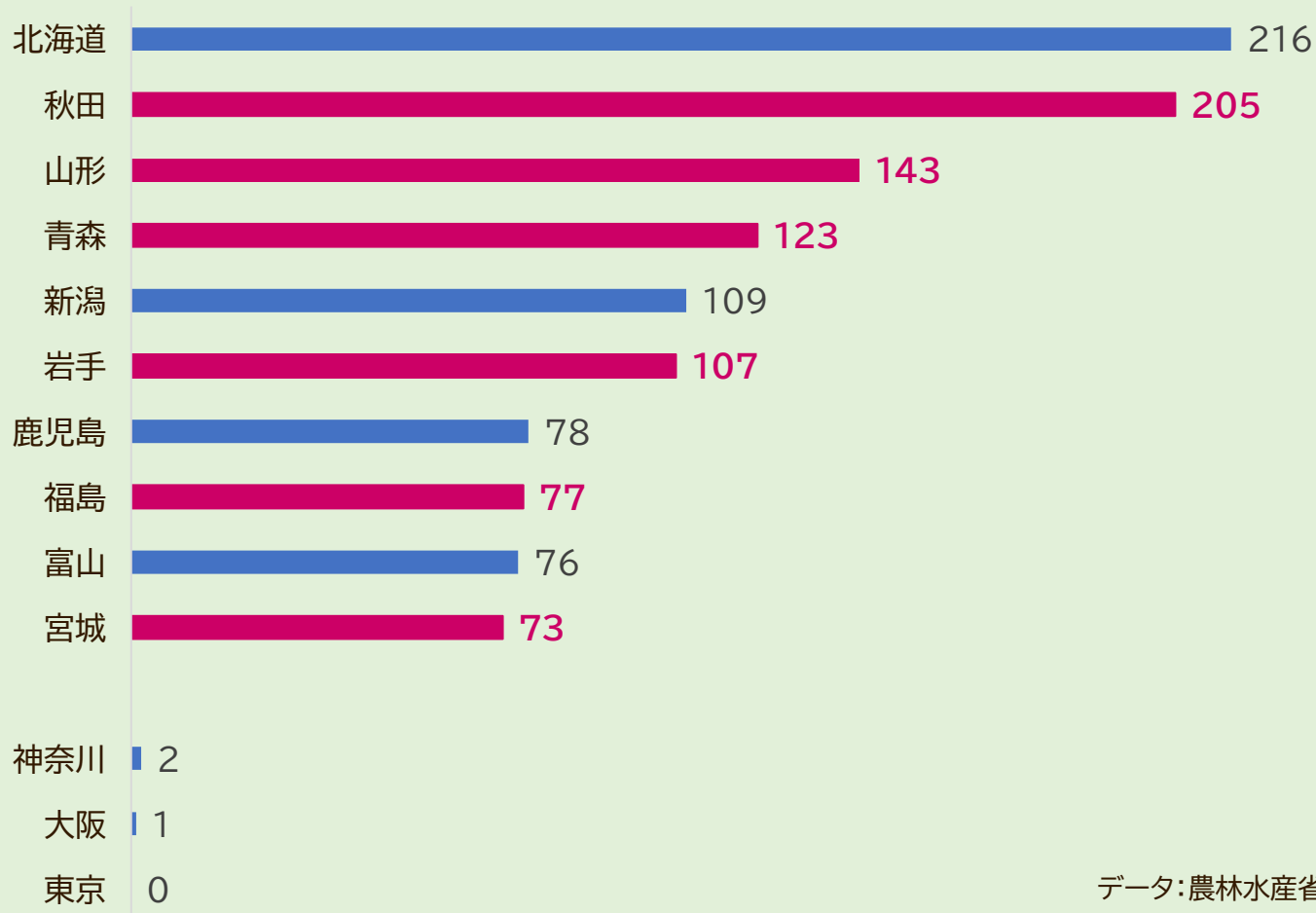
「種と肥料の海外依存度を考慮したら、日本の自給率は今でも10%に届かない。また、『お金を出せば輸入できる』ことを前提とした食料安全保障は通用しないことが今や明白になった。」

「だから、国際物流停止が日本を直撃し、餓死者が世界の3割にも及ぶという推定は大袈裟ではない。」



そのような状況の中、東北の「県内食糧自給率」は、6県ともベストテンにランクインしています。

都道府県別食糧自給率（カロリーベース 単位:% 令和元年）



データ:農林水産省

もちろん、
だから大丈夫、ということではありませんが

生活基盤の安定感や

食糧があることによる安心感が

東北に残っている

とは考えられないでしょうか。

このことを、マズローの欲求5段階説に当てはめて考えてみると、

自己実現欲求

自分の可能性を追求したい、自分の能力を発揮したい

承認欲求

自分の価値を認められたい、尊敬されたい、名誉を得たい

社会的欲求

集団に所属したい、公平に扱われたい、仲間を得たい

安全欲求

安全で安定した環境を得たい、危険を避け不安をなくしたい

生理的欲求

生命を維持したい(食事・睡眠)

東北の人たちは、最も基盤となる「生理的欲求」への不安が少ないのかもしれない。

自己実現欲求

自分の可能性を追求したい、自分の能力を発揮したい

承認欲求

自分の価値を認められたい、尊敬されたい、名誉を得たい

社会的欲求

集団に所属したい、公平に扱われたい、仲間を得たい

安全欲求

安全で安定した環境を得たい、危険を避け不安をなくしたい

生理的欲求

no rice, no life. ~ 米があれば、なんとかなるさ。

〈 リサーチ結果 2 〉

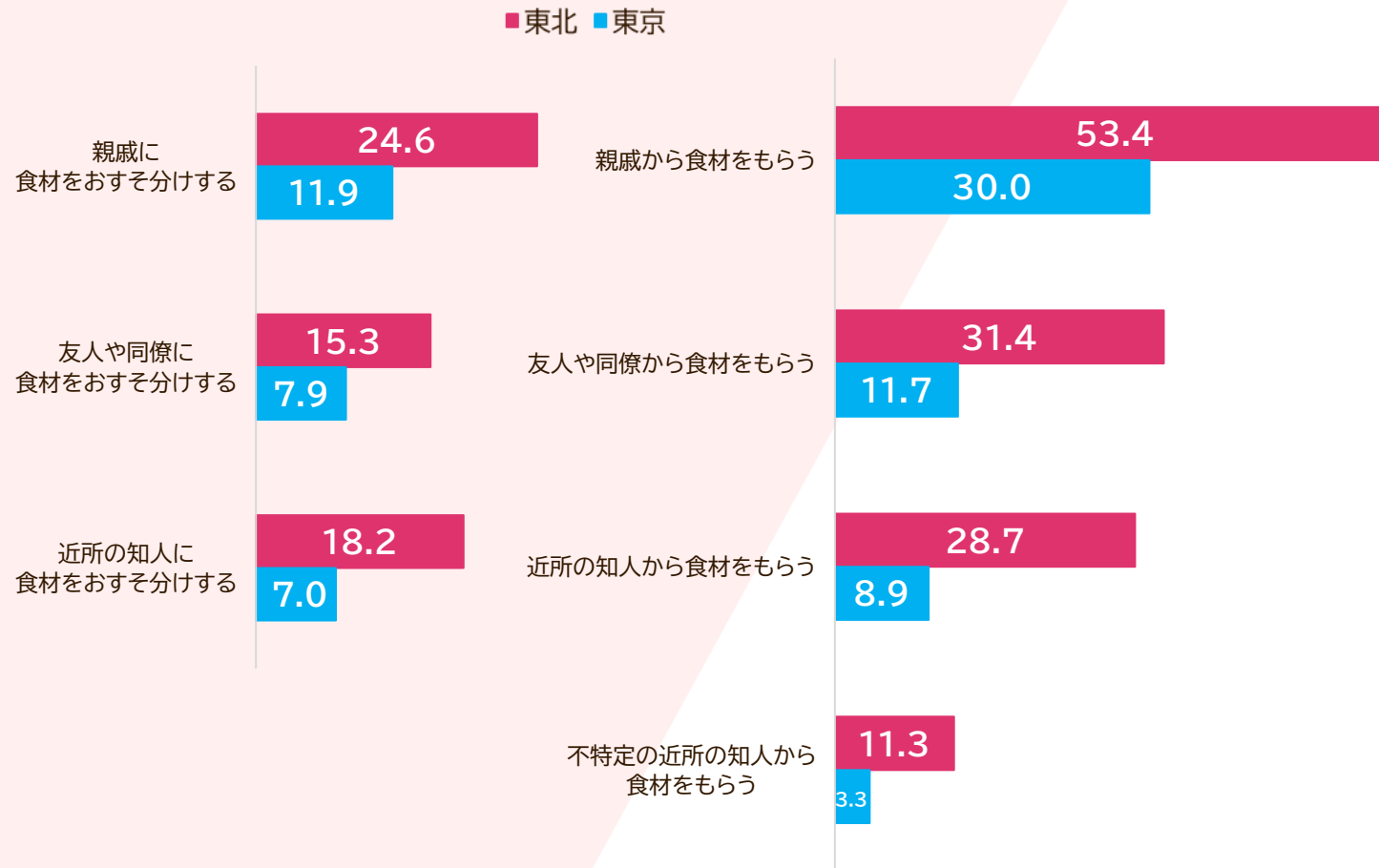
地域の中での贈答・交換について

Give and Given

「互いにあるものを与え合う」という関係

東北では親戚、友人・同僚、近所の知人との間でやり取りすることが、東京と比較してまだまだ多いようです。
家にあがる口実として野菜を持っていくなど、食材のおすそ分けがコミュニケーションの種になっている様子も。

Q.あなたが普段「食べるもの」についてお聞きします。あなたは、次のようなことがどの程度ありますか。



n = 東北 : 3120 / 東京 : 1030

釣った魚や家で採れた野菜を、近所のりんご農家の方におすそ分けしたりします。

自分からあげる分には、お返しをもらおうとは思わないのですが、自分がもらった時は申し訳ないなと思ってビール6本セットあげたりとかします。
(30代男性/会社員/青森県在住)

隣に住んでいる方が、家にあがる口実として野菜を持ってきたりすることもあります。

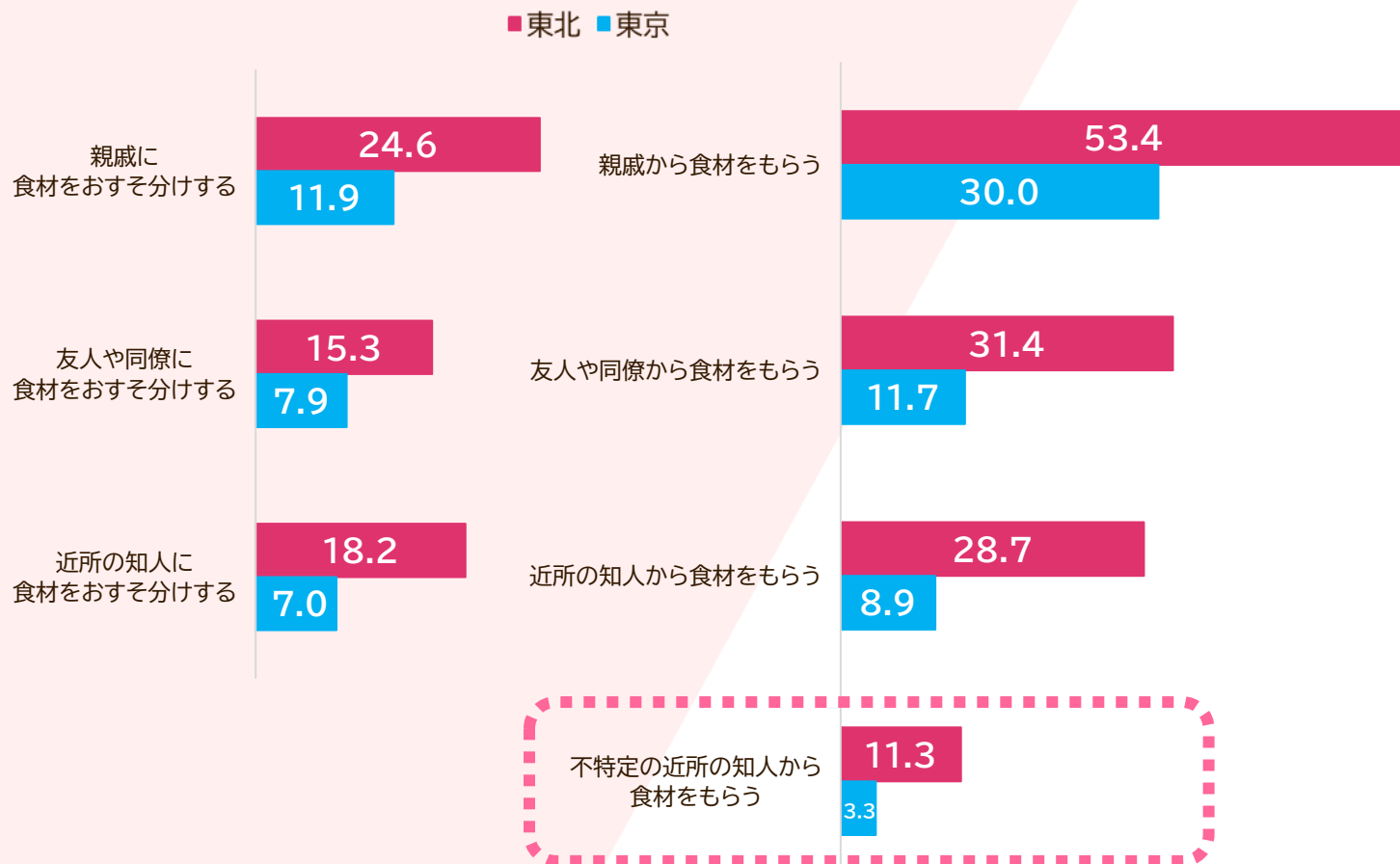
なかなか共通の話題がない相手でも、おすそ分けがコミュニケーションの種になっていたりしますね！

(40代男性/会社員/宮城県在住)

「不特定の近所の知人から食材をもらう」という声も11.3%見られました。

ご近所との信頼関係が出来上がっているからこそ、知らぬ間に玄関先に置かれた食材でも、不審がらずに食べられるようです。

Q.あなたが普段「食べるもの」についてお聞きします。あなたは、次のようなことがどの程度ありますか。



n = 東北 : 3120 / 東京 : 1030

気が付いたら自宅の玄関の外に

野菜が置いてあることが結構あります。

先日も白菜が置いてありました。

もちろん家族でおいしく戴きましたよ。

たぶん近所のあの人だなー、と想像は

つきますが、特に確かめたりはしませんね。

(20代女性/会社員/山形県在住)

いつも玄関の鍵は開けっぱなしなんですけど、

帰宅すると玄関の中に

野菜が置いてあることがあります。

誰がくれたのかは大体分かるので、

電話をしてお礼を言います。

(40代男性/会社員/秋田県在住)

では、このような「知らぬ間にもらったおすそ分け」へのお返しはどうしているのでしょうか？

近所の誰かからおすそ分けをもらった時、

すぐにお返しはしませんが、

ただ、いつも戴きっぱなしにはできないので、

自分の家で何か入手したときには

ご近所さんたちに配るよう、いつも心づもりしています。

(20代女性／会社員／山形県在住)



ちょっとした「おすそ分け」のやりとりの中からも
共同体におけるこのような関係が見えてきます。

Give and Given

「互いにあるものを与え合う」という関係

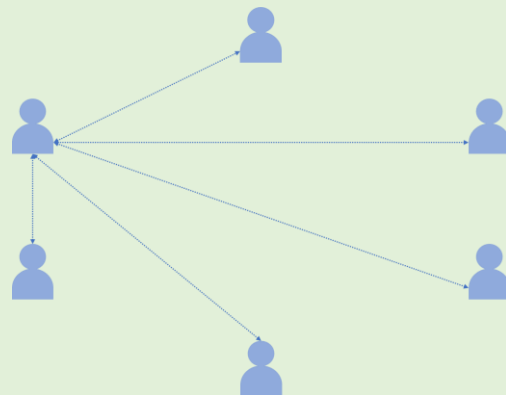
財は「地域の共有財」という考え方

Give & Take から Give & Given へ

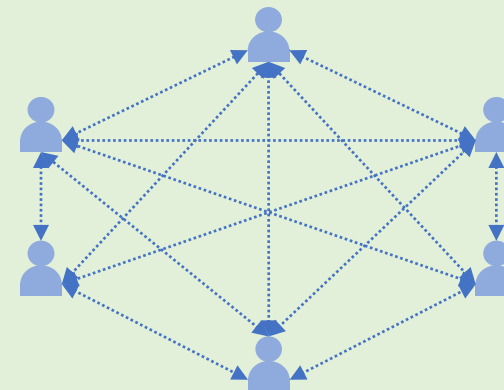
たとえばこれが「一対一」だと
「貸し」「借り」の関係となり、暗黙のうちに
「等価交換 = Give & Take」となるが、



相手が不特定だと、自分も何か手に入ったら
隣人みんなに返そうと思うようになり…

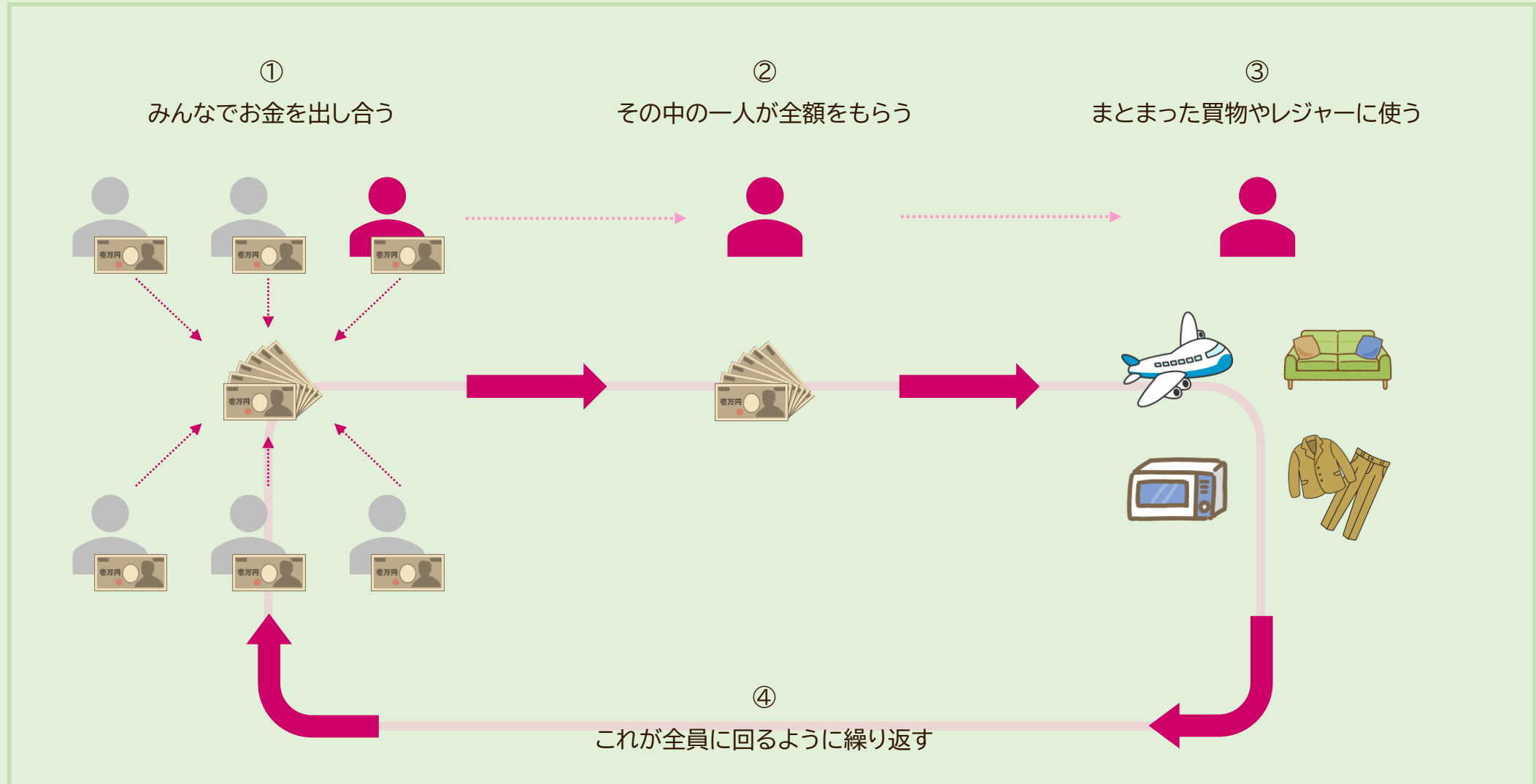


それをみんなでやるから「多対多」となって
「等価交換 = Give & Take」の関係がなくなり
Give & Given へ



〈 Give & Given の伝統的な事例 〉 無 尽

ロッキン調査隊リサーチによれば、東北には「無尽」と呼ばれる仕組みが、今でも一部地域に残っているようです。



マズローの欲求5段階説

血縁や地縁による「集団的安全保障」が、まだ東北には残っているようです。

自己実現欲求

自分の可能性を追求したい、自分の能力を発揮したい

承認欲求

自分の価値を認められたい、尊敬されたい、名誉を得たい

社会的欲求

集団に所属したい、公平に扱われたい、仲間を得たい

安全欲求

Give and Given ~ 財は「地域の共有財」

生理的欲求

生命を維持したい(食事・睡眠)

〈 リサーチ結果 3 〉

地域の中でのつながりについて

not TO BE, but AS IS.

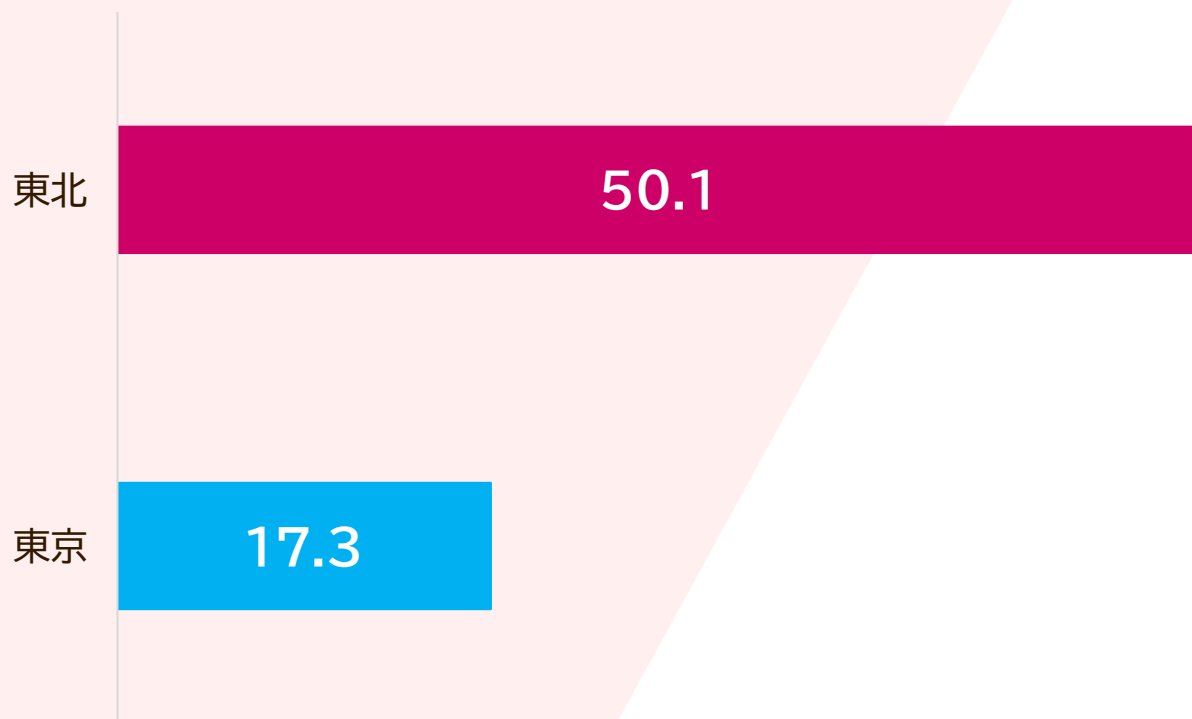
地域の中に、自分の役割がある。

東北では、2人に1人がいまでも町内会費を納めていました。
何かしら東北には「地域共同体」というものがまだ残っており、
それぞれ住んでいる町・村で、生活していくための義務という認識を持って、何かしらの役を引き受けているようです。

Q.あなたが住まいの地域(町・村)についてお聞きします。

次のうち、あてはまるものをすべてお選びください。

「町内会の会費を納めている」



私が住んでいた地域では、町内会で掘掃除、草刈り、ごみ当番などを行っていました。
どれも暮らしていく上で不可欠なことなので町内会に属さない、という選択肢はありませんね。

(20代女性 / 会社員 / 福島県在住)



年単位の持ち回りで町内会の代表を
することになっています。

代表になった人はゴミ捨て場の清掃、会計、町内会費の集約をします。

そこに住んでいる者の当然の義務としてやっていますね。

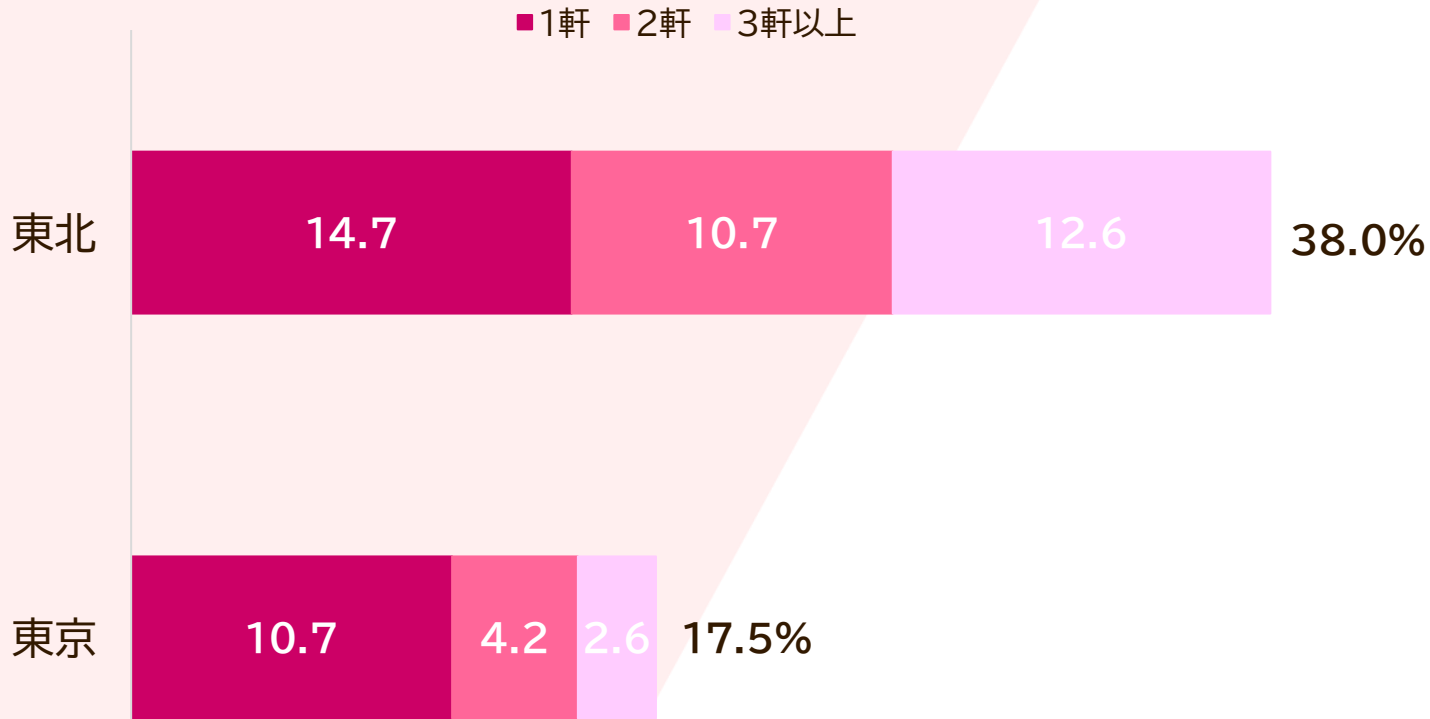
(30代女性 / 会社員 / 山形県在住)



n = 東北 : 3120 / 東京 : 1030

親戚がまとまって近所に住んでいる人もまだまだ多いです。
このご近所の親戚のなかでは、本家と分家のネットワークというものができており、
本家に食材が備蓄されていたり、親戚の中での相談役になるなど、
親戚間のネットワークがセーフティネットとして機能しています。

Q.あなたには、近所に住んでいて交流のある親戚の方はいらっしゃいますか。



うちは分家なのですが、本家には大きな蔵があって味噌・醤油や漬物などが備蓄されているので、何かあっても食物には困らないだろうと思います。

(40代男性/会社員/宮城県在住)

うちの父は本家の長男で、親戚間では「あんちゃん」と呼ばれています。

みんなの相談役になっていて、本人もその自覚を持っています。

親戚間では何かあったら「あんちゃん」に連絡する、という流れができていますので繋がりが保てているのだな、と思います。

(20代女性/会社員/福島県在住)

n = 東北 : 3120 / 東京 : 1030

このような、ご近所のなかで「役」があることは
時に面倒だったり束縛だったりする場合もあるのではないかと、思われますが、
むしろ役があることで、コミュニティを運営しているという自負が感じられ、
みんなの役に立とうという気持ちになる、という声も寄せられました。

町内会の役員や班長を経験しました。

それなりに大変だし面倒も多いけど、

**「役」を持つことで自分がコミュニティを
運営しているという「自負」を
感じる瞬間があります。**

役を与えられると、みんなの役に立とう、と
思うようになるんですね。

(40代男性／会社員／宮城県在住)



若い頃は「自分は何にでもなれる」と思っていたので、
役を押し付けられることは

可能性の芽が摘まれるようで、イヤでした。

でも、段々「何にでもなんてなれない」ことがわかってくると、

**「役」があることで自分はコミュニティから
必要だと認められているんだ、だったら
どんな「役」でも持っておけばいいんだ、と**

思えるようになってきて、

それからは親戚付き合いも東北での生活も楽しくなりました。

(30代女性／会社員／山形県在住)

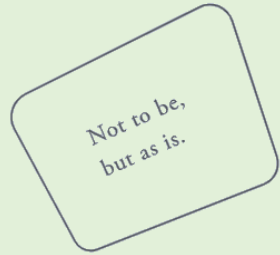


〈地域の事例〉 福島県南相馬市小高区

福島県南相馬市小高区では、住民の方々へのインタビューをもとに、小高に暮らす人々の6つの生活指針を「おだかるまいんど」と名付け、掲げています。



- | | |
|--------------------------------|---------------|
| 1. Not title, but Name. | 肩書じゃなく名前で生きる |
| 2. Give what you can. | 差し出しあって暮らす |
| 3. Not to be, but as is. | あるべきよりあるがままに |
| 4. Less is more. | ないことこそが豊かさ |
| 5. Big joy because it's small. | 小さなことが大きなよろこび |
| 6. Happiness is at your feet. | しあわせはいつもあしもとに |



あるべきより
あるがままに

ここに移住した人々は、肩書から生じる「やるべきこと」ではなく
ただ自分が「できること・役立てること」をしていました。

～移住者インタビューより～

「東京では『グラフィック・デザイナー』として仕事をしていましたが、
ここでは「西山里佳」という人間としてできることをしよう、と考えてます。」

「もちろんグラフィック・デザインの仕事があればやりますが、
ちょっと分野が違う空間デザインとかでも、勉強して自分で出来そうだったらやるし、
自分の手に負えない時には、無理せずに知り合いのクリエイターにお願いします。」

(西山里佳さん／南相馬市小高区在住)





not TO BE, but AS IS.

地域の中に、自分の役割がある。
「やりたいこと」とか「やるべきこと」とかを考える前に
ただそこに自分の「やること」がある。

マズローの欲求5段階説

東北にはまだ、「自立共生」的な社会が残されているのかもしれない。

自己実現欲求

自分の可能性を追求したい、自分の能力を発揮したい

承認欲求

自分の価値を認められたい、尊敬されたい、名誉を得たい

社会的欲求

not TO BE, but AS IS ~ そこに「やること」がある

安全欲求

Give and Given ~ 財は「地域の共有財」

生理的欲求

no rice, no life. ~ 米があれば、なんとかなるさ。

〈 リサーチ結果 4 〉

「便利」と「快適」に対する
東京と東北での意識の比較

東北・東京それぞれで、このような質問をしてみました。

東京について

地方について

便利
だと思う

東京は
「便利だと思う」か？

地方は
「便利だと思う」か？

快適
だと思う

東京は
「快適だと思う」か？

地方は
「快適だと思う」か？

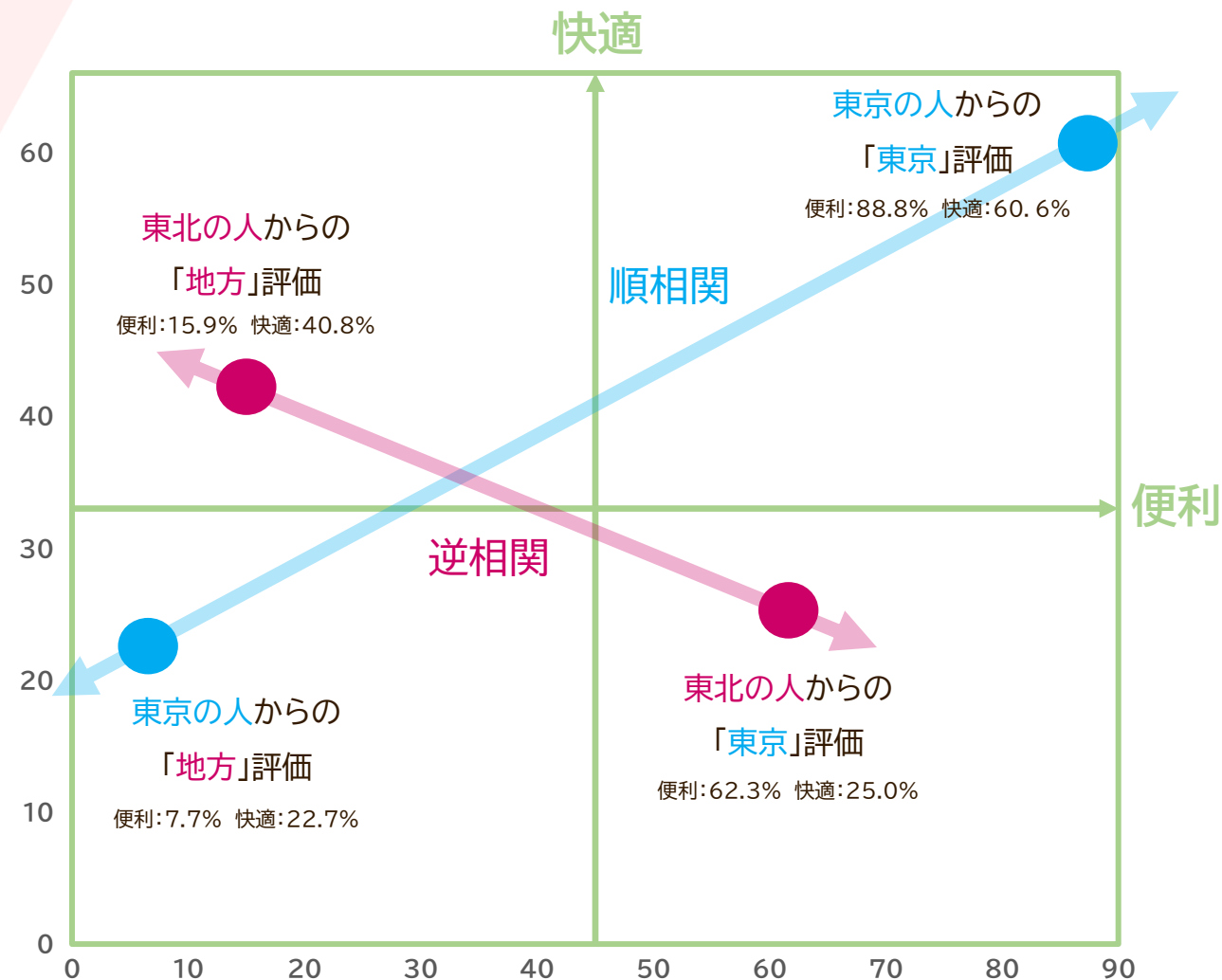
東京の人にとって「便利」と「快適」が順相関。

東北の人にとって「便利」と「快適」が逆相関。

東京の人からみた「東京」評価は、「便利」が88.8%、「快適」が60.6%と、いずれも非常に高い評価でした。対して「地方」については、「便利」は7.7%、「快適」も22.7%といずれも低く、いわば「東京は便利で快適、地方は不便で快適ではない」場所といった「便利」と「快適」が「順相関」する様子が見てとれます。

一方、東北の人からの「東京」評価をみると、「便利」については62.3%と高くなっていますが、「快適」については25.0%と低くなっています。対して「地方」評価を見ると、「便利」については15.9%と低いものの「快適」に関しては40.8%と相対的に高く、「便利」と「快適」が逆相関する結果となりました。

「不便」だけど「快適」、
これはいったいどのように解釈すればよいのでしょうか？



ヒアリング結果を探ってみると、

「不便」とは主に交通の便・買物の便の悪さや、自動化・電子化が進んでいないこと。
東北では、その不便さを人間が補い合って生活していかなければならない状況があるようです。

バスが走ってなかったので、学校までの行き帰りのために

同じ学校に通う子どもがいる

ご近所の親同士で車を出し合っていました。

私も近所の子の車に何度も乗せてもらいました。

(20代女性／会社員／岩手県在住)



連絡事項を

寄合や回覧板で共有しています。

回覧板を置いてくるついでに挨拶したりお茶飲みしたりして、
今日はおじいちゃん元気そうだな、とか
庭の手入れをしてないから体調悪いのかな、とか
気にかけています。

(20代女性／会社員／山形県在住)



しかし、そのような人間同士の支え合いにより、
今日ますます不安定さを増してきている社会の「土台」部分が東北では今も残されています。
それが、不便さと引き換えに「快適さ」をもたらしている、とは考えられないでしょうか。

承認欲求

社会的欲求

安全欲求

生理的欲求

not TO BE, but AS IS ~ そこに「やること」がある

Give and Given ~ 財は「地域の共有財」

no rice, no life. ~ 米があれば、なんとかなるさ。

人間同士の支え合いによって、社会の「土台」がしっかりと保たれている



産業本位・技術本位ではなく、「人間本位」の社会が、まだ東北には残されている

自己実現欲求

それは、「便利」(産業本位・技術本位)ではないが、人間本位の「快適」な暮らし

承認欲求

社会的欲求

not TO BE, but AS IS ~ そこに「やること」がある

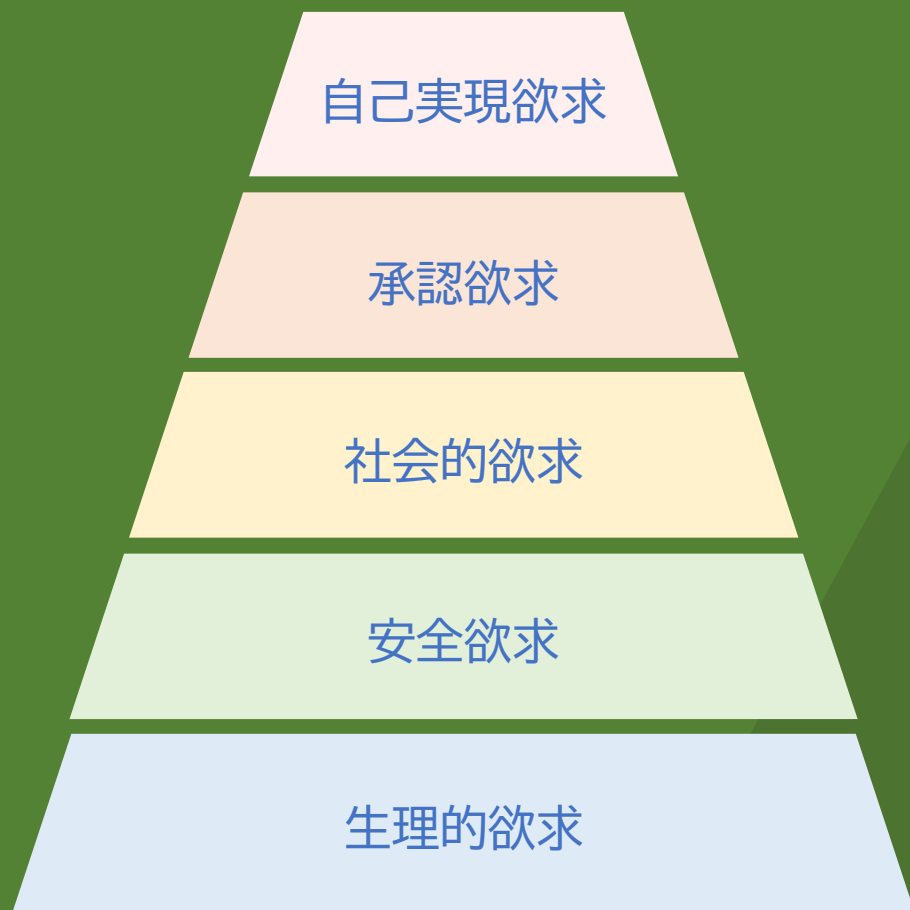
安全欲求

Give and Given ~ 財は「地域の共有財」

生理的欲求

no rice, no life. ~ 米があれば、なんとかなるさ。

振り返れば、日本では長い間、土台部分＝下の3つは「あって当たり前」で
上2つの「高次欲求」こそが追求されるべきだ、との考え方が一般的だったように思います。



自分の可能性を追求したい、自分の能力を発揮したい

追求すべきもの

自分の価値を認められたい、尊敬されたい、名誉を得たい

集団に所属したい、公平に扱われたい、仲間を得たい

安全で安定した環境を得たい
「あって当たり前」のもの
失くさないようにしたい

生命を維持したい(食事・睡眠)

そして、それを実現できる場所が「東京」でした。

〈東京を目指した理由〉

自己実現欲求

自分の可能性を追求したい、自分の能力を発揮したい

承認欲求

自分の価値を認められたい、尊敬されたい、名誉を得たい

社会的欲求

集団に所属したい、公平に扱われたい、仲間を得たい

安全欲求

安全で安定した環境を得たい
「あって当たり前」のものなくしたい

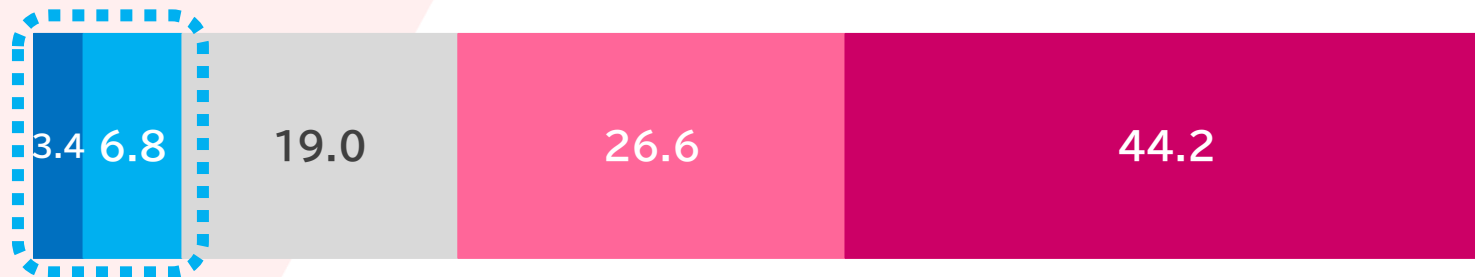
生理的欲求

生命を維持したい(食事・睡眠)

ところが今回の調査では、
東北から東京へ移住したいと思っている人は、1割しかいませんでした。
(女性20代で15.1%、男性20代で19.6%。)

Q. 東北にお住まいの方にお聞きします。あなたは将来、「東京」に移住したいと思いますか。

- たいへんそう思う
- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- まったくそう思わない



n = 3120

それは、「個人」として東京で「自己実現」を追求するよりも、
「人々」と共に支え合い不便さを補い合いながら、東北で「快適」に暮らすことを
選んでいるということかもしれません。

自己実現欲求

自分の可能性を追求したい、自分の能力を発揮したい

承認欲求

自分の価値を認められたい、尊敬されたい、名誉を得たい

社会的欲求

not TO BE, but AS IS ~ そこに「やること」がある

安全欲求

Give and Given ~ 財は「地域の共有財」

生理的欲求

no rice, no life. ~ 米があれば、なんとかなるさ。

お米をつくる。食材を贈り合う。財を共有する。

地域の「役」を引き受ける。親戚付き合いを維持する。

送り迎えや回覧板～互いに日々の暮らしを支え合う。

…そうして、あるがままに生きる。

自己実現欲求

承認欲求

社会的欲求

安全欲求

生理的欲求

not TO BE, but AS IS ~ そこに「やること」がある

Give and Given ~ 財は「地域の共有財」

no rice, no life. ~ 米があれば、なんとかなるさ。

(少し手前味噌かもしれませんが)

東京に遅れを取ってきたとされる東北に残される「古くからのモノ・コト」が、
結果的に今日の社会課題を解決する先進性を持つに至っているのかもしれない。

自己実現欲求

(周回遅れのフロントランナー)

承認欲求

社会的欲求

not TO BE, but AS IS ~ そこに「やること」がある

安全欲求

Give and Given ~ 財は「地域の共有財」

生理的欲求

no rice, no life. ~ 米があれば、なんとかなるさ。

ケーススタディ

～そのひとつの証左として～



#2
MORIOKA
Japan

52 Places to
Go in 2023

2023年に行くべき52か所

2023年1月、
ニューヨークタイムズ紙が選ぶ
「2023年に行くべき52カ所」の
2番目に
盛岡が選ばれました。

「残された」中心市街地、盛岡。

～ひとつの見立てとして～

高度成長期、

都市の中心から郊外へと居住者が流出する「ドーナツ化現象」により

全国で「中心市街地」の空洞化が進んだが、

そんな中で盛岡は

歴史・自然風土・商業・サービス施設や行政機関と

そこで暮らし 街を支える居住者が、

バランスよく「残された」都市

ニューヨーク・タイムズ紙へ推薦したライター

モドさんから見た「盛岡」

「盛岡市」を推薦したライター、クレイグ・モドさんが2月6日から9日まで盛岡を訪れ、7日に谷藤市長と対談しました。「今のままの盛岡がすごく良い」と語ったモドさんから見た、盛岡の魅力とはどんなものなのでしょう。

盛岡を選んだ理由は？



色々な街を通り過ぎるときに、「健全な街」かどうかがすごく気になって敏感になります。盛岡は歩きやすく、街並みがきれいで、自然との向き合い方が良かった。「健全」はどこから生まれているかという、個人でお店をがんばっている若い人から、いろいろの人と話せば話すほどそのような(若い人ががんばっている)話が出てきて、とても魅力的に感じました！

色々な街を通り過ぎるときに、「健全な街」かどうか、すごく気になって敏感になります。

モドさんに同行！ 「蛇屋町～清水町」を訪れました。



みちのくあが

染め、新ぎ、織り、全てが織物「ホームスパン」の作り手



たくさんのお店がありそうです

#私の好きな盛岡

皆さんが考える「盛岡」を2月8日～3月10日募集し、約1000件の応募をいただきました。ご紹介いたします。また、SNSで「#私の好きな盛岡」と検索して、みんなのおおめをシェアしましょう。

その日の写真や、コメントなどはこちら



“街が若い人たちの活気で溢れているのに感激した。誰と話してもみな親切で、よそから来た人を受入れる雰囲気溢れている。さらに、世代を超えて受け継がれている店を多く目にし、かなり驚いた。親子、祖父母と孫、さらにはひ孫の世代までが、一緒に店を経営している。”

(推薦者 クレイグ・モド氏のニュースレターより)

豊かで活気がある、創造的な生活を送ることができるコミュニティ
未来志向のエネルギーにあふれる健全な街・次の世代へのバトンがさまざまな場所で引き継がれる街

ティーハウス リーベ (内丸)



児山千代子さんと奥子の勇一さんが経営する、50年以上続く喫茶店。店内2階に差し込む光が生み出す美しい空間が、モドさんのお気に入りです。看板メニューの紅茶のはが、ピザトーストなどの食べ物もおすすめです。

理容ヒラサケ (神明町)



平澤直樹さんと奥子の徳蔵さんが二人きりで営む、盛岡の地で約100年続く理容室。最初は美顔でお客様にたずね直樹さんにひかれて入店したモドさん、柔らかな技術に感心されたそうです。



直樹さんが創業し、現在は継承する自家焙煎コーヒー。焙煎作業が生み出した心地は直樹さんの父親とお店を継いだのだそう。



高橋直樹さん

取り組み
「盛岡 暮らしまち協団」として、再来訪につながる交流人口の増加に
「上計画」
旧盛岡銀行 日本店本館建物の保存修理や公
などの伝統的な祭礼行事をまちづくりに取り
取り組みは4ページへ



皆さんの皆さんの盛岡愛で長い時間をかけてつくられた街が認められました。皆さんの日頃の自然な姿とおもてなしに、居心地の良さを感じ取っていただいたのだと思います。お越しになった方に喜んでもらえよう、これからも一緒に取り組んでいきたいと思います。

盛岡市長 谷藤 啓

空洞化した中心市街地

他所から通勤してきた販売員が
店を営む

他所から来た買物客が
店を利用する

だから

利益を上げるために
効率的な街に作り変える

盛岡

そこに暮らす人が(も)
店を営む(守る)

そこに暮らす人が(も)
店を利用する

だから

自分たちが暮らすために
快適な街を護る

「健全な街」

観光客にとっても快適な街へ

空洞化した中心市街地

他所から通勤してきた販売員が
店を営む

他所から来た買物客が
店を利用する

だから

利益を上げるために
効率的な街に作り変える

「産業本位」の街

盛岡

そこに暮らす人が(も)
店を営む(守る)

そこに暮らす人が(も)
店を利用する

だから

自分たちが暮らすために
快適な街を護る

「人間本位」の街

たとえば、盛岡で世代を超えてお店が営まれて続けているのは、
このような「人間本位」の循環があるからではないでしょうか？

no rice, no life.

このお店があれば、
このお客さんがいれば、
なんとかなる。

not TO BE, but AS IS.

盛岡という地に
自分が「やること」がある。

Give and Given.

街のお店は地域の財。
使い合うことで、街を守る。

盛岡にあるのは、交換可能な「ライフスタイル」ではなく、「ライフ」=暮らしそのもの。

それが今、世界からも評価を得る。そういう時代を迎えているのです。

東北は、何をすべきでしょうか？

自己実現欲求

承認欲求

社会的欲求

安全欲求

生理的欲求

Lifestyle スタイル



LIFE 暮らし

東北がこれからすべきことについて
このようなテーマで引き続き探索していきます

東北ルネサンス

～東北ならではの「人間本位」の生活とは～

東北コンフォート

～不便だけど(だから)快適な暮らしとは～

東北に残されている
生活行動や習慣をさらに発掘し
東北の快適さとは何か、について
洞察していきます

東北マイクロエコノミー

～地域内で循環する経済～

東北に残されている
生活行動や習慣をさらに発掘し
新たな地域経済活性化の方法について
洞察していきます

東北コモンズ

～共有して暮らす知恵とは～

東北に残されている
生活行動や習慣をさらに発掘し
共有・共助による社会作りの
ヒントを探っていきます

東北コンヴィヴィアリティ

～「共愉」的な暮らしとは～

東北に残されている
生活行動や習慣をさらに発掘し
人が主体性を持ち共生していくための
ヒントを探っていきます

東北インバウンド

～東北と「関係」を持つということ～

外国人観光客のみならず
移住定住・二拠点生活・ふるさと納税など
「関係を持ちたい」と思える東北の魅力を
探っていきます

ロッキン

東北6県研究所